

専門セクション活動報告書（現地調査①）
（先端技術協力：金沢大学より）

| (1) 担当教員 | | | | | |
|---------------------|--|---|-----------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 所属大学・部局 | 金沢大学・医薬保健研究域薬学系 | | | | |
| 職名 | 准教授 | | | | |
| 責任者氏名 | 佐々木陽平 | | | | |
| (2) 活動内容 | | | | | |
| 事業・活動名 | ロシア・アルタイ地域の資源植物調査およびアルタイ国立大学と関連企業の視察 | | | | |
| 活動時期 | 令和 1 年 9 月 8 日 ~ 令和 1 年 9 月 13 日 (6 日間) | | | | |
| 活動形態 | <input type="checkbox"/> 授業 | <input type="checkbox"/> 研究指導 | <input type="checkbox"/> インターンシップ | <input type="checkbox"/> セミナー | <input type="checkbox"/> 講演会 |
| | <input type="checkbox"/> シンポジウム | <input checked="" type="checkbox"/> その他：薬用資源植物調査と施設見学 | | | |
| 対象者及び参加者数 | 全3名：佐々木陽平（責任者），他大学院生 2 名 | | | | |
| 本活動に参画した他大学・企業・自治体等 | なし | | | | |
| 具体的な活動内容 | <p>(1) アルタイ山脈地域の薬用植物の自生地調査：日本で漢方薬原料として使用されている薬草の自生地およびその資源量。</p> <p>(2) Barnaul 市内のバザール調査：アルタイ地域の薬用植物の流通および市場調査。実際の種類や量，用途などに関する調査。</p> <p>(3) 南シベリア植物園施設訪問：この施設はアルタイ国立大学附属植物園である。薬用資源を中心に，多数の植物を維持，栽培していた。</p> <p>(4) 製薬会社 Visterra 社の施設見学：広大な敷地には植物栽培施設，植物抽出エキス製造工場，関連製品販売所などが点在していた。近隣の大学生 1 名を研修生として受け入れているとのこと。</p> | | | | |

(3) 成果・HaRP 事業への貢献

1. 本事業への効果という観点から、得られた成果

- (1) アルタイ国立大学との薬用植物の研究活動を通じた人材育成および学生交流:アルタイ国立大学附属薬用植物園である、南シベリア植物園のスタッフの方と研究交流をしました。この植物園は園内の植物の維持管理とは別にアルタイ地域の資源植物調査を実施していました。また研究棟も併設しており化合物探索や DNA 配列解析も実施可能でした。この内容および設備は、私の研究内容と類似しており共同研究テーマを設定することが可能と判断しました。共同研究を遂行する間に学生交流および人材育成が可能です。交流についての内容は、博士課程の学生であれば専門的な内容での研究交流となりますが、例えば学部生であればより拡大した内容を交えての交流活動が実施できると考えます。
- (2) 製薬企業 Visterra 社の施設見学:敷地内では人材育成や学生交流が十分実施可能な設備や施設がありました。学生のインターンシップを受け入れる体制も整っているようです。実際、ロシアの大学生を定期的に受け入れているそうです。社の代表は日本人学生も歓迎すると行っていました。日本の大学生でも Visterra 社の業務内容に興味を持つ学生がいればインターンシップが実施可能であることを確認することができました。
- (3) 薬用資源の自生地調査:アルタイ地域には漢方薬材料として利用される植物が多く自生していることを確認することができました。ただ、これら野生資源を採取して日本で使用するという考えは、質的安定性や量的なことから現実的ではないと思います。しかしこれらの植物は日本で見ることはないものであり、将来、植物見学ツアーのような旅行企画などの可能性も考えられました。
- (4)

2. 当該活動によりもたらされる他大学への波及効果

- (1) 上記項目の(3)について、例えば薬学生の学生教育の一環として、希望者が参加できる自生地見学ツアーが考えられます。この企画であれば薬学部を中心に他大学でも受け入れられる可能性が考えられます。

(4) 今後の展望

1. 日露交流の拡大・人材育成という観点における展望

- (1) 今回訪問した施設のうち、南シベリア植物園との研究交流は私の研究活動方針にも合致しています。共同研究を進める計画をしています。

(5) その他

ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

- (1) 今回は、私の研究室の博士課程の学生2名が同行するプログラムでした。博士課程の学生は既に自身の遂行すべき研究テーマを有していますから、今後の新たな新規交流の設定が限定される状況にありました。しかし今後、交流対象を学部生に拡大する方向で検討した場合は、人材育成も含めた交流が活動になることが期待されます。



製薬会社 Visterra 社の施設見学



南シベリア植物園施設訪問



アルタイ山脈地域の薬用植物の自生地調査